

部 長 長 縄 伸 一
研究主任 佐々木 大 揮
部 員 数 48名

1 研究主題

興味をもって、説明文を読み解く
～書く能力の向上を目指して～

2 はじめに

一昨年度は、「興味をもって、説明文を読み解く力の育成 ～教師も子どもも分かりやすい授業を目指して～」の研究を通して、教材に対する様々なアプローチを部会で検討することができた。昨年度から今年度にかけては、説明文を読み解くことで身に付けさせたい力にフォーカスし、その中でも特に書く力の向上を重点目標として授業実践を行っていかうと本研究主題を設定した。子どもたちが、主体的に説明文を読み解く中で確かな力を身に着けられる授業実践を重ねたい。

3 研究経過及び研究の概要

- (1) 各部員が自校において、研究主題に沿って実践を重ねた。
- (2) 研究会では学年ごとに分かれ、授業の教材研究や実践報告を行った。
- (3) 来年度の愛日支部国語部会研究集会発表に向けての授業計画を練った。
- (4) 今年度の成果を共有する各学年の実践報告会を行う予定である。

4 研究の概要

4月	研究主題決定、組織づくり
5月	各学年に分かれて、教材研究計画立て
10月	各学年に分かれて、教材研究・実践報告および質疑応答
1月	各学年に分かれて、今年度の授業実践まとめ・発表準備
2月（予定）	各学年、研究成果発表

月ごとの活動内容は上の表の通りである。各月、学年ごとに教材研究を行い、それを生かした授業実践の報告を行った。どのようなねらいのもと、授業計画をし、どのような手立てで実践したのか。その実践資料を持ち寄り、実際の生徒の様子から感じ取ったことを互いに伝え合うなど熱心に話し合う様子が多く見られた。そのように各学年で共有した実践成果を紙面にまとめていただき、10月にはそれらを集約した文面を次の研究会で配付することで、他学年の行った教材研究や実践報告を知る機会を設けた。しかし、今年度は感染症対策の関係で教育研究会が満足に開催できない期間があったため、

年度当初の計画通りは進まず、学年を超えた研究成果の共有が十分には行えていないのが現状である。現在、各学年が今年度の研究成果発表に向けての準備を進めている。その成果を共有し合い、それをベースに来年度も引き続き、研究に励んでいきたい。

5 今後の課題

小学校1年生から中学校3年生の9年間。それぞれの学年の発達段階に応じた指導方法を学び、小中を通じた「つながり」のある授業実践にしていけるように、これからも教材研究や実践報告を重ねていきたい。